



<教育目標>

英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

平成 28 年 12 月 16 日発行

No. 10 校長 矢口 仁

## 中野中学校だより

### 人権について考える II — 中学生意見発表会から — 校長 矢口 仁

12月3日に、「中学生意見発表会」が中野サンプラザで行われました。2年生の吉田珠子さんが自分の体験をもとに、素晴らしい発表をしました。その全文を紹介します。これは、夏休みに書いた「人権作文」をもとに、さらに考えを深めたものです。命の尊さや障害者に対する吉田さんの気持ちが述べられており、保護者の方にもぜひ読んでいただきたいと思います。



#### 命への思い

2年D組 吉田 珠子

私には、ダウン症の弟がいます。ダウン症とは、体を作る細胞の中の二十一番染色体が、2本あるべきはずが3本になることで起こる先天性症候群です。ダウン症があることで、知的な発達が遅くなったり、健常の人より体力が3分の1になったりします。

弟は、8歳ですが精神年齢は4歳と同じくらいで、現在は特別支援学校2年生です。うまく言葉を話すことや、読み書きをすることが苦手で、家で家族と練習をしています。私が絵本の読み聞かせをするとき、弟に発音の練習をさせています。上手く発音できたときの弟のうれしそうな顔を見ると、つい「かわいいなあ」と言ってしまいます。

最近、学校で学芸会があり、弟は自分の役を立派にやりきりました。今までは、その場に座り込んでしまい、舞台上上がることもできなかった弟が、とても上手に演技できるようになりました。私は、弟のそんな頑張る姿を見ると、胸が熱くなります。

私たちは、このように楽しい毎日を送っていますが、ふとしたときに、ある事件を思い出します。「相模原障害者施設殺傷事件」、たった一夜で19人もの尊い命が失われました。逮捕された植松聖容疑者は、亡くなった方の遺族へは謝罪をしたようです。しかし、亡くなった方に対しては謝罪も反省もしていません。さらに、事件の前にも「重度障害者は死んだほうがいい。」という気持ちをもってたと聞きました。

私はこのニュースを見たとき、本当に怖くなって、眠れませんでした。もし、植松容疑者のような考えの人が他にもいたら、弟を危険な目にあわせるかもしれないと思ったからです。私にとって、弟はかけがえのない存在です。私が小さかった頃、自分に弟ができると知って、大喜びしました。弟が、ダウン症であったということは、生まれてから分かったことです。そして当時、弟は「心内膜床欠損症」という、心臓の壁がなく動脈の血と静脈の血が混ざり合ってしまう病気を患っていました。生まれて二ヶ月後、手術のため三週間ほど入院しました。私は、せっかく弟ができたのに、しばらく会うことができず、寂しい思いをしました。

やっと手術が一段落して、元気になり、ほっとしたのもつかの間、家に帰ってくるなり、部屋を散らかしたり、ものをしゃぶったり、今度は、「姉」として面倒を見なければならず大変だったことを覚えています。(裏面へ続く)

でも、それも今となればよい思い出の一つです。これからも、弟はどんどん成長していきます。その過程で、嫌なことや辛いことは必ずあるでしょう。もしかしたら、人から嫌なことをされるかもしれません。そんなことがあっても、私たち家族や友達を思い出して「仲間がいる」ことを心の支えにしてほしいです。そして、いろいろな世界にふれてたくさんの「幸せ」を感じ、明日を楽しみに生きてほしいと願っています。

私が弟を大切に思っているように、障害のある人もない人も、一人一人が大切な存在です。ですから、「誰かの助けをかりなければならぬ」あるいは「社会のなかで役に立たない」などの偏見から「障害者は生きる意味がない」と判断するのは間違っています。人の生きる意味は、他人が決めることではなく本人が決めることだからです。

私は、今回の事件から、みなさんに障害のある人を一人の人間として見てほしいと思いました。障害のある人にも思いがあります。私たちがその思いをまっすぐに受け止めることで、障害者差別がおさまったり、今回の事件のようなことも起こらなくなったりするのではないかと考えています。障害者を差別する気持ちは、すぐには、消えないかもしれません。

ですが、みなさん、日常の生活で障害者差別につながるようなことがないか考えてみてください。面白おかしい場面で「障害者みたいだ。」などと嘲笑するようなことはないでしょうか。まずは、身近なところから、障害者差別をなくしていくと、きっとみんなにとって、明るい社会がやってくるでしょう。

## ☆ 「詩の心」を学ぶ

先週、3年生の授業を行う機会がありました。島崎藤村の「初恋」を取り上げ、詩のリズムや作者の思いを学び、朗読をしました。古典的な七五調の「文語定型詩」です。生徒がどのように感じるか興味深かったのですが、作者の心を十分に読み取っていてうれしく思いました。正月、百人一首等で、古典に触れる機会があるかと思えます。そこに込められた古人の心を学べたらいいなと思いました。

### 【生徒の感想】から

- 恋の相手を林檎にたとえ、初恋の甘酸っぱさが表現されていてよいと思い、好きな詩だと感じた。また、詩を読んでいるだけで作者の気持ちや背景が伝わってきて、共感する部分もあり、昔の詩なのに人間の心って変わらないなと感じた。(女子)
- 初恋の瞬間から、その恋の成就、発展までの思いがとてもよく伝わってきて、気持ちが理解できた。七五調のリズムがとても読みやすかった。(男子)

## ☆ お詫び

合唱コンクールのDVDが、12月中旬にはお届けできるとお知らせしていましたが、作成が予定よりも遅れてしまいました。誠に申し訳ありません。

お手元に届くのが、1月以降となります。もうしばらくお待ちください。

初恋  
島崎 藤村

まだあげ初めし前髪の  
林檎のもとに見えしとき  
前にさしたる花櫛の  
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて  
林檎をわれにあたへしは  
薄紅の秋の実に  
人こひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの  
その髪の毛にかかるとき  
たのしき恋の盃を  
君が情に酌みしかな

林檎島の樹の下に  
おのづからなる細道は  
誰が踏みそめしかたみぞと  
問ひたまふこそこひしけれ